



## 2019 年度 FD 推進センター年報

# 目 次

2019 年度 教育開発支援機構 FD 推進センター活動報告-----	1
-------------------------------------	---

## 2019 年度 教育開発支援機構 FD 推進センター ユニット活動報告

教員サポートユニット-----	4
学生サポートユニット-----	7
学びの質向上ユニット-----	9

巻末資料-----	11
-----------	----

※規程・委員名簿については HP 公開用では非公表といたします。

## 2019年度 教育開発支援機構 FD 推進センター活動報告

### 1. 2019年度 運営・執行体制

- (1) 教育開発支援機構長  
廣瀬克哉（法学部教授）
- (2) センター長  
竹口圭輔（経済学部教授）
- (3) ユニット・リーダー等  
教員サポートユニット 岡松暁子（人間環境学部教授）  
学生サポートユニット 川崎貴子（文学部教授）  
学びの質向上ユニット 山本兼由（生命科学部教授）
- (4) 事務局  
学務部教育支援課（課長1名・事務主任1名・課員4名（うちFD業務主担当2名））

### 2. 2019年度 イベント開催

- (1) 第8回新任教員FDセミナー（学内・FD・新任教員対象） [巻末資料 1]  
「授業・講義資料と著作権」  
講演者：木村 友久（山口大学大学研究推進機構知的財産センター長/教授）  
日時：2019年9月28日（土）13：00～15：00  
場所：市ケ谷キャンパスボアソナード・タワー26階A会議室  
人数：40名
- (2) 第20回FDワークショップ（学内・SD・教職員対象） [巻末資料 2]  
「社会環境が変化する中で大学が目指す方向とそのための道標とは  
～身近な改善と効果的な取り組みを考える～」  
講演者：田中 一平（総長室付教学企画室課長） 他  
日時：2019年9月6日（金）13：00～17：00  
場所：市ケ谷キャンパス ボアソナード・タワー26階スカイホール  
人数：76名

### 3. 各学部等のFD活動への支援

「学生による授業改善アンケート」学部等ごとの集計および特別集計の提供、授業相互参観の推進、全学GPCA集計表の提供、学部教授会等におけるFD研修または情報提供

### 4. 個別教員への教育支援

新任教員研修会におけるセンター長講演（4/2）、「学生による授業改善アンケート」の実施、アカデミック・サポートサービス、学生による授業モニター、剽窃チェックソフト Turnitin の全学展開、その他教育支援ツールの紹介（授業支援システム、授業支援ボックス、アクティブラーニング・セット）

## 5. 学生による FD 推進

FD 川柳 2019 の実施、学生 FD スタッフの活動（オープンキャンパス企画（8/4・8/18・8/19）、教育開発支援機構主催「学生が選ぶベストティーチャー賞」への参画、「学習支援ハンドブック 2020」への編集協力、学生 FD サミットへの参加（8/27・28、2/27・28）、お昼休みミーティング等）

## 6. 2019 年度 発行物

冊子「法政大学学習支援ハンドブック 2019」(2019. 4. 1)、冊子「T・Aハンドブック」(2019. 4. 1)、冊子「2019 年度学生が選ぶベストティーチャー賞実施報告」(2020. 3. 31)、冊子『法政大学教育研究第 10 号』(2019. 8. 1)

## 7. 各ユニット等の事業概要

### (1) 教員サポートユニット

FD 支援・推進のための関連情報の提供、新任教員研修会、教員研修、シンポジウム、フォーラム、ワークショップ等の企画・実施。具体的には、新任教員研修会、新任教員セミナー、教職員研修、授業相互参観、シンポジウム・セミナー等の企画・実施、『法政大学教育研究』の編集・発行、各学部等における取り組みの支援。

### (2) 学生サポートユニット

学生の主体的な学びへの意欲および教育の質向上を目的とした、学生・職員・教員協働型の大学教育の質的転換に関する情報発信。学生の視点を活かした授業改善および組織的な学生 FD 活動の実施。FD 川柳の開催、ホームページ・関連冊子による情報発信（「学習支援ハンドブック」等）。

### (3) 学びの質向上ユニット

教育の質的向上に向けた全学的活動推進のための情報収集、分析、施策の企画・立案・提案。「学生による授業改善アンケート」の実施・改善、アンケート結果の集計・分析、報告書の発行。GPA の活用方法の検討と提案。

## 8. 学内会議

### (1) 教育開発支援機構企画委員会（規定第 1030 号）

教育開発支援機構長を補佐するとともに、機構の活動方針・機構を構成する 4 センターの運営方針を審議し決定するための会議。

構成：委員長（機構長）、副委員長（担当常務理事・事務部長）、各センター長、指名委員、オブザーバー 計 12 名

会議：10 回開催（4/25・5/23・7/4・9/26・10/24・11/21・12/19・1/23・2/20・3/12）

### (2) ユニット・リーダー会議（規定第 829 号）

FD 推進センターの事業の企画及び実施に係る審議を行う会議。

構成：教育開発支援機構長、センター長（議長）、ユニット・リーダー、事務局

会議：9 回開催（4/11・5/16・6/20・7/18・10/17・11/14・12/12・1/16・3/5）

(3) ユニット会議

FD 推進センターの事業を各ユニットが専門的かつ中心となって実施するための会議。

構成：ユニット・リーダー（座長）、ユニット・サブリーダー、ユニット・メンバー（教員サポート：7名、学生サポート：6名、学びの質向上：6名）

会議：教員サポート：3回、学生サポート：4回、学びの質向上：9回。これらの他、各メーリングリストにより適宜メール会議を実施。

(4) アドバイザリー・ボード（規定第 829 号）

FD 推進センターの事業に関わる助言・提案及びチェックを行うとともに、学部教授会等との連絡調整を行うための会議。

構成：議長（センター長）、教育開発支援機構長、ユニット・リーダー、各学部・ILAC・KLAC・研究科長会議・通信教育部・事務部門から選出された委員 計 35 名

会議：3回開催（5/18：年度活動計画、11/30：中間報告（メール会議）、3/19：活動報告）

## 9. 所属学会・参加団体・外部対応

(1) 大学教育学会：団体会員

(2) 初年次教育学会：機関会員

(3) 日本リメディアル教育学会：賛助会員

(4) 全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPFF：Japan Private Universities FD Coalition Forum）（38 大学加盟）：幹事校

幹事会・総会・シンポジウム（6/29）、幹事校・会員校ミーティング（1/15）

(5) 関東圏 FD 連絡会（青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学）  
連絡会（6/14・3/2）

## 10. その他

(1) セミナー参加費補助

大学コンソーシアム京都「第 25 回 FD フォーラム」（2/29・3/1）：教職員 9 名

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター「学生主体の授業運営手法 WS および実践編 WS」（7/31・8/1）：教員 1 名

日本高等教育開発協会・追手門学院大学教育開発センター「カリキュラムコーディネーター養成研修会」（11/15～17）：職員 1 名

日本高等教育開発協会「FD 担当者のための FD 丸わかりセミナー」（3/8）：教員 1 名

(2) 他大学主催学生 FD サミット派遣

北翔大学主催「学生 FD サミット 2019 夏」（8/27・28）：教職員学生 4 名

広島経済大学主催「学生 FD サミット 2020 春」（2/27・28）：教職員学生 4 名

(3) FD メルマガ：5 通

以上

## 2019年度 教育開発支援機構 FD 推進センター ユニット活動報告

### <教員サポートユニット>

#### I. 2019年度活動計画（2019年5月18日のアドバイザー・ボード会議で報告された内容）

##### 1. 活動目的

教員の授業設計・方法・改善に役立つ提案、学部・学科単位でのFD活動の支援、新GPA制度導入に伴う成績評価のあり方に関する検討等を行うことで、FD活動の活性化及び実質化を図る。

##### 2. 活動計画

###### (1) 学部・学科におけるFD活動

- ・各学部教授会におけるFD研修、情報提供
- ・半期に3～4学部で実施することを目指す  
(2019年度のテーマ)
- ・授業支援システム・授業支援ボックスの使い方
- ・Turnitin（剽窃チェックソフト）の使い方

###### (2) 新任教員研修（毎年4月上旬開催、当該年度新任教員の出席必須）

- ・センター長による、FD活動の説明

###### (3) 教員FDセミナー（9月開催予定） \*2018年度までの新任教員FDセミナー

- ・「授業・講義資料と著作権（仮題）」
- ・9/28（土）午後（予定）
- ・外部講師の招聘
- ・新任教員の出席を必須とする
- ・新任教員以外の教員の出席も要請する
- ・今後も、必要に応じて教員の授業設計・方法・改善に役立つテーマで開催

###### (4) FDワークショップ（9月開催予定）

- ・職員向け
- ・学務部研修との共催

###### (5) 「学生による授業モニター」の実施

- ・2019年度の実施について、各学部に協力を要請する
- ・2020年度以降の実施についての再検討

###### (6) 教員向けサービス一覧の作成

- ・教員の授業設計・方法・改善に役立つ情報の提供  
(参考) 2018年度 『ゼミ活動等を対象とした学生向けルーブリックのご案内』  
2017年度 『新学年暦-100分授業制-教員ガイド』

###### (7) 新GPA制度導入に伴う成績評価のあり方に関する検討

##### 3. ユニット・メンバー（五十音順、\*：ユニット・リーダー、\*\*：ユニット・サブリーダー）

相原健人（理工学部）／\*岡松暁子（人間環境学部）／岸牧人（経済学部）／久保貴寛（学務部  
学部事務課市ヶ谷リベラルアーツ・SSI 担当）／\*\*酒井理（キャリアデザイン学部）／田中佐代子  
（法学部）

## II. 2019 年度活動実績（報告）

### 1. 学部・学科における FD 活動

- (1) 人間環境学部教授会における研修（7月17日）
  - ・剽窃ソフト、授業支援システム等について：教員サポート・ユニットメンバーが実施。
  - ・参加者：30名
- (2) 生命科学部教授会における研修（9月27日）
  - ・剽窃ソフト、授業支援システム等について：教員サポート・ユニットメンバーが対応。
  - ・参加者：36名
- (3) スポーツ健康学部教授会（兼任講師懇談会）における研修（9月28日）
  - ・対象：スポーツ健康学部の専任教員および兼任講師
  - ・場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
  - ・山本兼由教授（生命科学部）、教員サポート・ユニットメンバーが実施。
  - ・スポーツ健康学部にて特化した授業改善アンケートの結果解説
  - ・教員の授業改善に役立つ教育方法の紹介
  - ・参加者：27名
- (4) 文学部教授会における研修（10月16日）
  - ・剽窃ソフト、授業支援システム等について：教員サポート・ユニットメンバーが対応。
  - ・参加者数：53名

### 2. 新任教員研修（4月2日、当該年度新任教員の出席必須）

センター長による、FD活動の説明

### 3. FD 教員セミナー \*2018 年度までの新任教員 FD セミナー（9月28日）

**【巻末資料 1】**

- ・参加者数：40名（新任教員24名、新任教員以外9名、関係者7名）
  - ※昨年度参加者数：39名（新任教員29名、新任教員以外1名、関係者10名）
- ・講師：木村友久氏（山口大学大学研究推進機構知的財産センター センター長・教授）
- ・演題：「授業・講義資料と著作権」

### 4. 第 20 回 FD ワークショップ（9月6日）

**【巻末資料 2】**

- ・参加者数：76名（事務職員61名、関係者15名）
  - ※昨年度参加者数：104名（事務職員89名、関係者15名）
- ・テーマ：「社会環境が変化する中で大学が目指す方向とそのための道標とは～身近な改善と効果的な取り組みを考える」

### 5. 「学生による授業モニター」の実施

**【巻末資料 3】**

春学期、秋学期とも、「学生による授業モニター」を実施し、モニターを受けた教員からは概ね好評を得た。

### 6. シラバス作成における授業計画の記載内容について（Web シラバス入稿ガイドラインの改訂）

「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」欄に、授業外において必要な学習時間を具体的に記入する。

### 7. 『法政大学教育研究』（通称：紀要）のリポジトリ登録について

- ・本学図書館との調整の結果、この度、本学リポジトリに紀要の登録申請が可能となったため、登録申請を行う。  
法政大学学術機関リポジトリ <https://hosei.repo.nii.ac.jp/>

FD 推進センターHP 該当ページ [http://www.hoseikyoiku.jp/fd/kiyo\\_kenkyu](http://www.hoseikyoiku.jp/fd/kiyo_kenkyu)

- ・第4号以前については、冊子保存はあるものの、データ.pdfの保存が確認できないため、現在、印刷業者に確認中。確保次第、リポジトリ登録とする。
- ・紀要(2018年度分で終刊)の後継である『FD推進センター年報』(2019年度分～、通称:年報)のリポジトリ登録については、年報の内容等を検討後に改めて調整する。

#### 8. 新 GPA 制度導入に伴う成績評価のあり方に関する検討

従前の A+ については、全体の 20% 以内という目安を設定してきた。S 評価が導入されたことで、評価に多少の変化がみられることから、今後、S や A+ の割合の上限をどの程度とするかについて、継続して検討する。

以上

## <学生サポートユニット>

### I. 2019年度活動計画（2019年5月18日のアドバイザー・ボード会議で報告された内容）

#### 1. 活動目的

- ・学習支援ハンドブックを作成し、学生の主体的な学びを支援する。
- ・学内外での「学生FD」活動を通し、学生参加型の授業改善活動を推進する。
- ・FD川柳の募集と受賞作の発表により、FDに対する関心を喚起する。

#### 2. 活動計画

##### (1) FD川柳の実施

FD 学生の声コンクールについては、教員を励ます目的で開始されたが、現在はベストティーチャー賞など、他の機会も設けられている。また、内容が、FDとは離れてきている。したがって、少なくとも今年度は学生の声コンクールは行わず、FD川柳2019のみ実施する。

FD川柳には昨年、一昨年と130件を超える多数の応募があったが、重複応募による重複受賞について懸念の声が寄せられていた。そこで、今年度は応募数を1人2点までに制限する。

募集要項については6月中にチラシを作成し、7月より募集を開始する。受賞作品の広報については、より多くの学生・教職員に届くよう、SNSを含めた方法を議論していく予定。

##### (2) 『学習支援ハンドブック2019』の編集

大きな改訂は行わず、必要な修正にとどめる。7月中に修正すべき情報の収集を行う予定。

##### (3) 学習環境支援センターとの連携

本ユニットと同じく、学生による自立的学習支援を目的とする学習環境支援センターとの連携を図っていく。具体的には、学習支援ハンドブックを活用したLステゼミの共同開催などの可能性を模索する。

##### (4) オープンキャンパス企画

8月4日、18日、19日の3日間、学生FDスタッフによるオープンキャンパス企画講演を行う予定。本ユニットでは学生FDによる企画をサポートする。

##### (5) 学生が選ぶベストティーチャー賞

教育開発支援機構が主体の企画であるが、実施に際しては学生FDスタッフのサポートを行う。

##### (6) 学生FDサミットへの参加（夏と冬の年2回）

学生FDサミットへ教職員・学生併せて4名派遣し、他大学における学生FD活動の情報収集を行う。2019年夏は北翔大学（8月27日、28日）@北海道江別市にて開催。

##### (7) その他

本ユニットに関わる各種取り組みに関し、実施の有無や内容の変更などを継続的に検討していく。

#### 3. ユニット・メンバー（五十音順、\*ユニット・リーダー、\*\*：ユニット・サブリーダー）

安藤光平（教育支援担当）／\*川崎貴子（文学部）／\*\*小原丈明（文学部）／高橋美穂子（経営学部）／山田快（経済学部）、湯山颯太（学務事務課文学部担当）

## II. 2019 年度活動実績（報告）

### 1. FD 川柳の実施

[巻末資料 4]

- ・募集期間・広報：7月1日～9月27日より、ポスター掲示、HP、SNS、学内メーリングリストなどで告知
- ・応募結果：応募作品数は75件（42人）／昨年119件（32人）
- ・審査結果：結果：大賞1点、入賞9点を選出 重複受賞は無し
- ・受賞作品広報：  
審査結果は12月9日発行のニュースレターとしてHP、学内掲示板を通じて発表。  
2020年1月、ニュースレターの裏面をブックカバーとして利用できるデザインにしたものを学部窓口、学生センター、教授室、および3キャンパスの図書館を通して配布した。  
また、大賞作品をデザインしたクリアファイルを全専任教員に配布した。

### 2. 学習環境支援センターとの連携

[巻末資料 5]

- Lステゼミの開催：学習環境支援センターとの連携として、Lステゼミの共同開催を行った。
- (1) 6/24 (月) 「英単語の効果的な学習法」 中田達也文学部准教授
  - (2) 12/16 (月) 「レポート作成のコツを学ぼう！～自然科学編～」 吉田智文学部教授
  - (3) 12/18 (水) 「レポート作成のコツを学ぼう！～人文科学編～」 小島尚人文学部専任講師
  - (4) 12/20 (金) 「レポート作成のコツを学ぼう！～社会科学編～」 小原丈明文学部准教授

### 3. 『学習支援ハンドブック 2020』の編集

[巻末資料 6]

- ・冊子には大きな改訂は行わず、主に改組、学内システムの変更などの変更点を反映させる修正にとどめた。3月末に納品予定。
- ・学習支援ハンドブックのオンデマンド化の要望が寄せられたため、今年度より、学習支援ハンドブックのオンデマンド化の作業を行い、4月以降の公開に向けて準備中である。

### 4. オープンキャンパス企画

8月4日、18日、19日の3日間、学生FDスタッフによるオープンキャンパス企画講演のサポートを行った。

### 5. 学生が選ぶベストティーチャー賞

[巻末資料 7]

教育開発支援機構が主体の同企画の実施、および受賞者へのインタビューにおいて、学生FDスタッフのサポートを行った。

### 6. 学生FD サミットへの参加（夏と冬の年2回）

2019年夏は北翔大学（8月27日、28日）@北海道江別市にて開催された学生FDサミットへ、教員1名、職員1名、学生2名を派遣した。

冬のサミットは2月27、28日に広島で行われる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から、開催が中止された。

以上

## <学びの質向上ユニット>

### I. 2019 年度活動計画（2019 年 5 月 18 日のアドバイザー・ボード会議で報告された内容）

#### 1. 活動目的

実践知を実現する本学教育研究での「学びの質」を支える「教育の質」と「学習の質」を向上させる研究と施策提案を目的とする。個別授業の「教育の質」と「学習の質」向上を推進している「学生による授業改善アンケート」結果の分析と報告を中心とした活動を行うとともに、「4+1 年サイクル」の3年目に際して支援する課題を浮き彫りとし、効果的な「教育の質」と「学習の質」向上に資する研究も行う。

#### 2. 活動計画

##### (1) 「教育の質」向上への支援

- ・2018 年度「学生による授業改善アンケート」結果の分析・報告  
個別授業の「学生による授業改善アンケート」結果を分析する全学データのフィードバック
- ・「学生による授業改善アンケート」結果の自由記述分析（重点課題）  
自由記述分析から全学にフィードバックできることの検討
- ・「教育の質」向上に資する各種 FD 支援システム活用実績の分析

##### (2) 「学習の質」向上への支援

- ・授業改善アンケートと他アンケートとの連携の模索（重点課題）  
IR・他アンケートとの連携から「学習の質」向上のポイント抽出の検討
- ・学生が主体となる気づきとそのサポートの企画・開発  
ループリックなどの企画・開発
- ・「学習の質」向上に資する各種 FD 支援システム活用実績の分析

##### (3) 新しい効果的な取り組みの検討

- ・本学 FD の STP 分析
- ・新 GPCA 集計表の構築と特別集計受注の仕組み導入の検討（重点課題）
- ・各種 FD 支援システム活用実績の分析について検討

#### 3. ユニット・メンバー（五十音順、\*ユニット・リーダー、\*\*：ユニット・サブリーダー）

石毛 満悠（学務部教育支援課）／井芹 俊太郎（総長室大学評価室 [IR 担当]）／\*\*菅 幹雄（経済学部）／田澤 実（キャリアデザイン学部）／森山 祐紀（総長室大学評価室 [IR 担当]）／\*山本 兼由（生命科学部）

### II. 2019 年度活動実績（報告）

#### 1. 「教育の質」向上への支援

##### (1) 2018 年度「学生による授業改善アンケート」結果の分析・報告

**【巻末資料 8】**

- ・2018 年度の「学生による授業改善アンケート」全学集計結果を分析し、報告書をまとめ、公表した。
- ・科目種別を検討し、2019 年度より「卒論」を再度追加した。

- ・スポーツ健康学部から依頼があった当該学部のみ授業改善アンケート分析を行い、それを報告した。

(2) 「学生による授業改善アンケート」結果の自由記述分析（重点課題）

- ・様々な自由記述分析を検討した結果、全学集計結果に以下を追加することとした。
- ・「自由記述記入率」と「工夫（問1）」とのクロス集計
- ・高い工夫回答群のテキストマイニング分析

(3) 「教育の質」向上に資する各種FD支援システム活用実績の分析

2019年度の関連する活用実績を集計し、その内容を検討する。

## 2. 「学習の質」向上への支援

(1) 授業改善アンケートと他アンケートとの連携の模索（重点課題）

- ・卒業生アンケートとの連携を検討した。
- ・1年生アンケートとの連携を検討した。
- ・他大学で取り組むDPの活用に関するアンケート体制を研究した。

(2) 学生が主体となる気づきとそのサポートの企画・開発

- ・STP分析から支援対象を検討し、ルーブリックなどの活用の企画・開発を検討した。
- ・他大学で取り組む修学ポートフォリオについて研究した。
- ・1年生アンケート検討から、「汎用的能力」より「知識」の向上がGPAに効果的と推定した。

(3) 「学習の質」向上に資する各種FD支援システム活用実績の分析

2019年度の関連する活用実績を集計し、その内容を検討した。

## 3. 新しい効果的な取り組みの検討

(1) 本学FDのSTP分析

FD支援ツールと大学教育研究の相関を検討し、まとめた。

(2) 新GPCA集計表の構築と特別集計受注の仕組み導入の検討（重点課題）

**[巻末資料 9]**

- ・新GPCA集計表のフォーマットを構築した。
- ・集計のフィードバック先を整理した。
- ・特別集計受注の仕組みを導入した。

(3) 各種FD支援システム活用実績の分析について検討

2019年度の活用実績を集計し、その内容を検討する。

以上

## 巻末資料

### 1. 第8回新任教員FDセミナー

「授業・講義資料と著作権」(2019年9月28日)

2019年度  
新任教員  
参加必須

学内教職員向け

## 2019年度FD教員セミナー

### 「授業・講義資料と著作権」

大学教員が教育研究活動で必要とする著作権法の基礎知識を、実践事例ベースで説明します。授業の過程における著作権の権利制限規定(著作権法35条)が、昨年5月に改正されました。この条文は現時点では未施行であり、ここでは従来の権利制限規定への対応と改正法施行(補償金支払いによる異時公衆送信の解禁)を見送った対応の両方について具体的に検討します。また、FDに代表される新たな教育手法に付随する著作権リスクの対応事例など、今後の教育研究活動と密接な関係があるタイムリーな内容についても解説を行います。

**講演者プロフィール**  
木村 友久 (きむらともひさ)  
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター センター長 教授  
早稲田大学法学部卒業 専門分野は知的財産法、教育工学、産学連携、情報教育、産業教育。主な著書に『ガイゼット 大学の授業改善』(共著)、『有斐閣、1999』、『知財教育の実践と理論』(共著)、『白紙書房、2013』、『大学と研究機関、技術移転機関のための知財契約の実践的実務マニュアル』(共著)、『経済産業委員会、2011』 2008年4月 特許庁長官賞(産業財産権制度関係功労者表彰)受賞

日時  
2019年9月28日(土) 13:00-15:00

【開会挨拶】13:00-13:05 岡松 暎子(人間環境学部教授・教員サポートユニットリーダー)  
【講演】13:05-14:25 木村 友久(山口大学 大学研究推進機構知的財産センター長 教授)  
【質疑応答】14:25-14:50  
【閉会】15:00

対象者: 本学教員(専任・兼任、今年度新任専任教員は参加必須)  
参加費: 無料  
会場: 市ヶ谷キャンパス内  
※詳細は参加者にお知らせいたします

お申込み  
～9月25日(水)まで  
申込フォーム  
<https://forms.gle/Kr4XohBrgqIGRT15A>

主催/法政大学教育開発支援機構FD推進センター  
【E-mail】kyoiku@hosei.ac.jp【TEL】03-3264-9040  
【URL】http://www.hosei-kyoiku.jp/fd/



### 2. 第20回FDワークショップ

「社会環境が変化の中で大学が目指す方向とそのための道標とは ～身近な改善と効果的な取り組みを考える」(2019年9月6日)

《学務部・千代田区キャンパスコンソニウム教職員対象》

## 法政大学 第20回FDワークショップ

### 社会環境が変化の中で 大学が目指す方向とそのための道標とは ～身近な改善と効果的な取り組みを考える～

大都市圏の大学定員規制、私立大学の公立化、国立大学の法人統合など、大学を取り巻く環境は目まぐるしいスピードで変化しています。そのような中、2018年秋に中央教育審議会による「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」が公表されました。大学を取りまく環境変化について、正しく認識し、今後直面するであろう課題に大学職員としていかに向き合うべきかを考えます。また、将来的な社会変化への対応として、日本ならではの経済社会システムであるSociety 5.0(超スマート社会)を迎えるにあたり、新しいテクノロジーやアイデアを活用して、旧来の業務をどのように変えていくことができるのか、企業や学内外の具体的な事例を通して学ぶ機会としたいと思います。

日時 2019年9月6日(金) 13:00-17:00  
会場 法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー26階スカイホール  
主催 法政大学教育開発支援機構FD推進センター・学務部  
共催 千代田区キャンパスコンソ

＜第一部＞ 13:00～14:30  
◆開会挨拶  
教育支援本部担当学務理事・副学長 廣瀬貴哉(法学部教授)  
◆講演 13:10～13:40  
「2040年に向けて、大学はどこに向かおうとしているのか」  
教育学企画 課長 田中 一平  
◆距離提供 13:40～14:20  
「革新的な業務改善事例(学内外の事例を掲載提示)」  
◆第一部総括  
教育開発支援機構FD推進センター長 竹口圭輔(経済学部教授)  
司会 FD推進センター教員サポートユニットリーダー 岡松暎子(人間環境学部教授)

＜第二部＞ 14:40～17:00【職員対象】  
◆グループワーク 14:40～16:10  
「効果的かつ効率的な業務へのシフトについて」  
◆発表 16:15～16:55  
◆議評・閉会挨拶  
教育支援本部担当学務部長 平山重雄

申込方法  
◆以下のURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申し込みください。  
◆法政大学教員で学務部以外の方は、申込前に必ず所属長の許可を得てから、お申し込みください。  
<https://forms.gle/A1FoH3VmqjCbptA7>

申込締切:2019年8月30日(金)  
※定員に限り次第締め切ります。  
※個人情報は厳重に管理し、本イベント以外の目的で使用いたしません。

※17:30からポアソナード・タワー26階ラウンジにて情報交換会を開催します。

お問い合わせ＞法政大学 教育開発支援機構FD推進センター  
TEL:03-3264-9040 E-mail:kyoiku@hosei.ac.jp



### 3. 「学生による授業モニター」の実施

2019年度春学期

## 法政大学 学生による授業モニター

FD推進センターでは、学生と教員が共に授業をより良くすることを目的に、  
学生による**授業モニター**を募集します。  
モニター学生は受講者としてではなく、  
モニターの立場として**授業参観**をしていただき、  
授業に関して気がついた点を教員にフィードバックしていただきます。



**【学生による授業モニター制度とは】**

学生視点からの意見を取り入れ、教育改善に活かすための制度です。  
事前研修を受けていただいた授業モニター学生により、**授業参観**を行います。  
授業モニター学生は授業参観を行い、チェックシートを基に学生の視点から、  
授業の行い方等(話し方、板書方法等)について、気が付いた点を教員にフィードバックします。  
教員は、授業モニター学生からのフィードバックを受けて得た気づきを、今後の授業改善に役立てます。

**【応募条件】**以下のすべてを満たすこと

- 1 法政大学に在籍中の学部生・大学院生
- 2 企画の主旨に賛同し、積極的に関与する意思を宣言できる方
- 3 下記日時の事前研修に必ず参加できること

6月1日(土)10:40~12:10 市ヶ谷キャンパス(東洋館5階 503)

**【実施期間】**

市ヶ谷・小金井キャンパス : 2019年6月10日(月)~2019年7月20日(土)  
多摩キャンパス : 2019年6月10日(月)~2019年7月23日(火)  
※上記期間のうち任意の担当授業1コマ(複数担当も可也)

**【実施までの流れ】**

事前研修(90分) ⇒ 担当教員と事前打ち合わせ ⇒ 授業参観(100分) ⇒ 教員へのフィードバック

**【申込方法】**

下記よりお申し込みください。  
<https://forms.gle/NmFTQo9rx1GW5n6D9>  
申込期限:5月30日(木)



お問い合わせ:  
法政大学教育開発支援機構FD推進センター(事務局 学部教育支援課)  
TEL:03-3264-9040 E-mail:kyoiku@hosei.ac.jp

2019年度秋学期

## 法政大学 学生による授業モニター

FD推進センターでは、学生と教員が共に授業をより良くすることを目的に、  
学生による**授業モニター**を募集します。  
モニター学生は受講者としてではなく、  
モニターの立場として**授業参観**をしていただき、  
授業に関して気がついた点を教員にフィードバックしていただきます。



**【学生による授業モニター制度とは】**

学生視点からの意見を取り入れ、教育改善に活かすための制度です。  
事前研修を受けていただいた授業モニター学生により、**授業参観**を行います。  
授業モニター学生は授業参観を行い、チェックシートを基に学生の視点から、  
授業の行い方等(話し方、板書方法等)について、気が付いた点を教員にフィードバックします。  
教員は、授業モニター学生からのフィードバックを受けて得た気づきを、今後の授業改善に役立てます。

**【応募条件】**以下のすべてを満たすこと

- 1 法政大学に在籍中の学部生・大学院生
- 2 企画の主旨に賛同し、積極的に関与する意思を宣言できる方
- 3 事前研修に必ず参加できること
- 4 2019年度春学期に事前研修受講済の方は、今回の研修は参加不要です(申込は必ず行ってください)。

10月12日(土)12:30~14:00 市ヶ谷キャンパス(東洋館5階503教室)

**【実施期間】**

2019年11月11日(月)~2020年1月20日(月)  
※上記期間のうち任意の担当授業1コマ(複数担当も可也)

**【実施までの流れ】**

事前研修(90分) ⇒ 担当教員と事前打ち合わせ ⇒ 授業参観(100分) ⇒ 教員へのフィードバック

**【申込方法】**

下記よりお申し込みください。  
<https://forms.gle/JFwNfmRVNKBKv7>  
申込期限:2019年10月4日(金)12:00まで



お問い合わせ:  
法政大学教育開発支援機構FD推進センター(事務局 学部教育支援課)  
TEL:03-3264-9040 E-mail:kyoiku@hosei.ac.jp

### 4. FD 川柳の実施



## 「FD 川柳」を募集します!

本学の授業をより良くしていくためのアイデアや気づきを、五・七・五の川柳で表現してみませんか?  
川柳は俳句と違って季節がなく、自由に創作できる点に特徴があります。法政大学の授業を改善していくために、日頃みなさんが感じていることや考えていること、あるいはメッセージなど、川柳を通じて表現してください。教職員からの投稿もOKです。たくさんのご応募をお待ちしています。

**応募資格**

- 法政大学の学生と教職員はどなたでも応募できます(ペンネームでも可)。
- 団体や複数名での応募はできません(個人での応募のみ受け付けます)。
- 応募作品はオリジナルで、他の川柳コンテストに応募していないもの、公表されていないものに限りです。また、個人が特定されるような記載はご遠慮ください。
- 一人2作品まで応募できます。

**賞**

- ・「FD 川柳大賞」として1作品を選出します。
- ・「入選」作品も複数選出します。
- ・入賞者には「えこびん」グッズを贈呈します。
- ・入賞作品は FD 推進センターの広報媒体等を通じて公開する予定です。

**応募方法**

- ・FD 推進センターHPもしくは右のQRコードから応募してください。



**募集期間**

2019/7/11(月)~2019/9/27(金)

**発表**

選考結果は 2019年 11 月下旬に FD 推進センターのホームページ等で発表します。

教育開発支援機構 FD 推進センター  
TEL:03-3264-4268 E-mail:kyoiku@hosei.ac.jp URL:http://www.hoseikyokujp.jp/fd/

## NEWS! FD川柳発表

法政大学教育開発支援機構 FD推進センター

発行日:2019/12/9

### 2019年 FD川柳 選考結果

2019年に始まった「FD川柳」の募集は、今年で4回目を迎えます。学生・教職員からの応募もいただきました。多数のご応募、ありがとうございました。  
応募総数14作品の中から、FD川柳大賞1作品、入選作品を選出しました。  
以下受賞作品を紹介します。

入選

大学院 生き方を問う 学びがな  
ディスカッション さらば高まる息巻機  
アイデアと 思い出づる 廊下室  
居眠りや 私語、立ち歩き 自由とは?  
SNSやるとさがるGPA 五回よんまほ  
授業料 元を取るぞと 助む日々  
宿題 閉めてもいまだ 知が残る  
選考から 自分の中で 考える ガイジマホス  
栗原 太

FD川柳大賞

リアクション  
あると嬉しい  
リアベかな  
藤原 敬

特別企画! えこびんブックカバー



このチラシ裏を本のサイズに合わせて折ると、文庫本用のブックカバーとしてご利用いただけます。法政大学の人気キャラクターえこびんをシックにデザインしたブックカバー、ぜひ機会にご活用ください。

発行: 法政大学 教育開発支援機構 FD推進センター  
ホームページ: <http://www.hoseikyokujp.jp/fd/>  
お問い合わせ: 学部教育支援課 kyoiku@hosei.ac.jp



## 5. 学習環境支援センターとの連携(L ステゼミ)

[Lステゼミ]

### 「英単語の効果的な学習法」

**6月24日(月) 昼休み12:25-12:50**  
**学習ステーション(富士見坂校舎2階)**

**内容**  
 英語学習において、多くの単語を身に付けることは欠かせません。それでは、どのようにすれば多くの単語を効果的に学習できるのでしょうか？  
 今回のLステゼミでは、第二言語習得に関する研究をもとに、効果的な英単語の学習法をご紹介します。具体的には、「コア・ミニングを知る」、「意図的学習と付随的学習」、「ITを活用する」、「記憶術を活用する」などのトピックを取り上げます。

**参加費** 無料 **定員** 22名

**参加要項**  
 ①お名前(みりがな) ②学部・学科 ③学年  
 ④学生証番号⑤メールアドレス  
 ※応募者多数の場合は抽選となります。  
 [URL]  
<http://forms.gle/v7HygnVvESmdNa7>

**Lステゼミとは…**  
 専攻科目の講義において、教材の20%程度をLステゼミで学ぶことができます。Lステゼミとは、L(Learning)とS(Seminar)の頭文字を取ったもので、L(Learning)とは「学習」を、S(Seminar)とは「ゼミ」を意味します。Lステゼミでは、L(Learning)とS(Seminar)の両方のメリットを活かして、最新の学習法を体験していただきます。



[Lステゼミ] 教員が盛り上げる30分一本勝負の知的体験

**12月16日(月)** 申込みはこちら  
**自然科学編**  
 自然科学分野のレポート作成における注意点やコツを、伝えます。  
 文学部 吉田 智教授

**12月18日(水)** 申込みはこちら  
**人文科学編**  
 ~作品解釈って何するの？感想からレポートへの5つのステップ~  
 文学部や韓国について「自由にテーマを絞ってほしい」という課題に悩んだことはありませんか？感想書(だけじゃ足りないけど)「論じる」ってどうしたらいいの？...この講義では、具体的な感想から出発してレポートの完成へと至る5つのステップを伝えます。  
 文学部 小島 尚人専任講師

**12月20日(金)** 申込みはこちら  
**社会科学編** ~課題解決型のレポート~  
 何か課題が課せられ、その課題について解決策を提案する形式のレポートを作成する際のポイント(重要な点、コツなど)について話をします。定量的アプローチあるいは定性的アプローチからかわらず、論理(ロジクス)を提案することは必須です。  
 文学部 小原 文明准教授

富士見坂校舎2階学習ステーション 03-3264-9072



## 6. 学習支援ハンドブック 2020

(抜粋)



**INDEX** PDF版をダウンロードできます。  
<http://www.hoseiyoiku.jp/td/handbook/>

- 02 法政大学へようこそ WELCOME TO HOSEI UNIVERSITY  
 02 法政大学へようこそ 08 校歌を知ろう！
- 10 大学での学びとは GETTING STARTED  
 11 時間表をつくる 13 法政ポータルサイト(Hoppli)について  
 22 学習ポートフォリオのすすめ 24 ノートの取り方  
 26 メールのマナー 27 ディスカッション
- 28 成績評価・授業改善 GRADES AND COURSE EVALUATION  
 28 成績評価を受ける 32 授業改善アンケート
- 34 レポートの書き方 HOW TO WRITE PAPERS  
 34 レポートを書く 35 レポート課題をゆめよう！  
 36 アイデアのよめ方 ーレポート執筆の準備ー  
 38 レポートの構成 39 構成するには？  
 40 アカデミックライティングの基礎 ーバロクツフとはー  
 43 先行研究の適切な引用と区別 45 教授教員を適切に敬って文章を組み立てよう！  
 46 レポート提出時のチェックポイント 47 レポートの文量  
 49 校正記号 50 レポート形式の例 52 キーボードに慣れよう！
- 54 プレゼンテーション技法 PRESENTATION SKILLS  
 54 プレゼンテーション基礎 ー準備ー 56 プレゼンテーション基礎 ー資料ー  
 58 プレゼンテーション本番 ー心掛ー
- 60 文献や情報の集め方 INFORMATION GATHERING  
 61 図書館を使いこなそう！  
 64 インターネットで情報収集 ー信頼できるサイトの見分け方ー
- 68 その他 OTHER TOPICS  
 68 学生生活支援Q&A  
 71 あなたも挑戦してみよう！法政大学のコンテスト・奨励制度
- 72 法政大学お宝コレクション SPECIAL HOSEI UNIVERSITY COLLECTIONS  
 72 法政大学図書館 73 町上記念法政大学総合研究所  
 74 大塚社会問題研究所 75 刊誌文化研究所

## 7. 学生が選ぶベストティーチャー賞

もっと知りたい!  
と思える授業  
～令和初代のベストティーチャーを探せ～

2019年度  
「学生が選ぶベストティーチャー賞」

投票期間  
2019.10/23(水)～11/15(金)

投票方法  
● Webサイト  
● 投票用紙(裏面)  
● 選出結果は、12月下旬にFD推進センターHPで発表

主催  
国際文化学部  
学生生活センターFD推進委員会  
学生CDスタッフ

共催  
国際文化学部FD推進センター  
国際文化学部学生支援部  
TEL:03-3546-0040  
MAIL: kyokai@hosei.ac.jp



2019年度  
学生が選ぶベストティーチャー賞  
ベストコメント賞発表

Best comment award

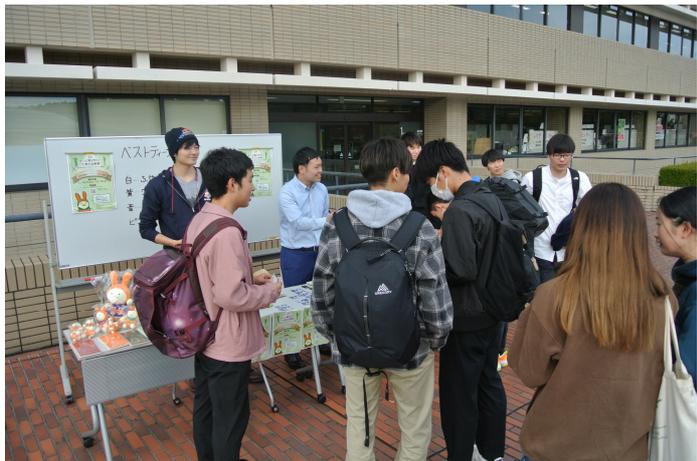
2019年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」に、ご投票いただいた皆様ありがとうございます。いただいた投票の中から、10件の投票理由を「ベストコメント賞」として選出いたしました。ぜひご覧ください。受賞者の学生には個別に連絡し、賞品を贈呈いたします。

フィールドワークを何度も実施し、現場での「地域の人々との触れ合い」に重きを置いていらっしゃる先生です。そのため経験も非常に豊富で、「自分も行ってみたい!」と思わせてくれます。また、ご自分の意見や考えもしっかり振るぎなく持っていらっしゃるのですが、決してそれを学生に押しつけたりすることなく、学生たちにも「自分の考え」を持たせる時間を毎回の授業でしっかり設けてくださることが、非常にためになり、いつも楽しく熱中して受講できています。

自分を見つける時間を設けてくれ、嬉しいですな!

理系問題をグローバルかつ専門的な視点で、しかも素人にもわかりやすく教えるとともに、世間では語られない「問題の本質」「問題の経緯」などをわかりやすく丁寧に解説していただける。なぜなのか、どうすればいいのかと常に考えながら授業を聞くことができ、文系の私が初めて科学の楽しさを知った。知識を増やすのではなく、物事の本質を見抜く力を少しでも身につけられたらと思っている。また情報ソースの開示によってさらに自分なりに文献に当たることができると、深く探求するための情報を考えてもらっている。

科学の楽しさを知る授業魅力です。



2019年度  
「学生が選ぶベストティーチャー賞」  
受賞者発表

学生のみならず、ご投票ありがとうございました。  
1,289件の投票の結果、以下10名の先生方が2019年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者として決定しました。

おめでとうございます!!

教養部門	専門部門
ALLEN KIM (兼任講師)	佐野 俊夫 (生命科学部教授)
齋藤 範 (兼任講師)	筒井 知彦 (経営学部教授)
塩谷 勇 (理工学部教授)	長原 豊 (経済学部教授)
	松本 悟 (国際文化学部教授)
グローバル・語学部門	宮井 弘之 (兼任講師)
富所 明秀 (兼任講師)	
柳川 浩三 (理工学部准教授)	

(五十音順、敬称略)

## 8. 2018 年度「学生による授業改善アンケート」結果の分析・報告

### 2018 年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書（抜粋）



2018 年度

「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書

2019 年 7 月

学部 ..... P. 1～P. 24

大学院 ..... P. 25～P. 47

発行：法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター

## 学部

### 1. はじめに

2004 年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005 年度より FD 推進センターが主催する形として、これまでに 14 年間実施してきました。アンケートは、2009 年度の期首・期中・期末の実施、教員への非公開を担保した匿名式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014 年度の秋学期より Web 形式で実施するなど改善を図ってきました。2017 年度からは、アンケート項目を 5 問とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

本学は法学部（市ヶ谷キャンパス）、文学部（市ヶ谷キャンパス）、経済学部（市ヶ谷キャンパス）、国際文化学部（市ヶ谷キャンパス）、人間環境学部（市ヶ谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（市ヶ谷キャンパス）、デザイン工学部（市ヶ谷キャンパス）、グローバル教養学部（市ヶ谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、現代福祉学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の 15 学部から構成され、さらに同じ学士課程として通信教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）が加わります。本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など明確な理由から 2018 年度は 1,812 科目のアンケートを非実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では 454 科目（講義全体の 9%）、演習では 892 科目（演習全体の 37%）、語学では 182 科目（語学全体の 6%）、実験では 86 科目（実験全体の 29%）、実技では 198 科目（実技全体の 40%）であり、少人数で行う語学科目やゼミや研究がメインとなる科目が多くなります。これらの非実施科目は、独自のアンケートを行うなどの個別対応が行われています。2018 年度のアンケート対象全科目数は 10,141 科目（春学期 4,980 科目、秋学期 5,161 科目）でした。アンケートに回答があった科目数は 9,460 科目（春学期 4,784 科目、秋学期 4,676 科目）であり、結果として 25.2%の回答率（回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率）（春学期 29.6%、秋学期 20.8%）を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは巻末に年度、春学期、秋学期別に実数として収録しています。

春学期期末アンケートは、2018 年 6 月 29 日（金）～8 月 7 日（火）（4 期制の学部・研究科は 5 月～6 月にも実施）に実施しました。システムログイン情報から、学生の 9 割以上は期末試験期間（7 月 23 日～8 月 3 日）以前にログインを行っていました。秋学期期末アンケートは、2018 年 12 月 10 日（月）～2 月 8 日（金）（4 期制の学部・研究科は 10 月～11 月にも実施）の冬季休業（12 月 25 日～1 月 7 日）を挟む期間として実施しました。システムログイン情報から、学生の 8 割以上は期末試験期間（1 月 22 日～2 月 2 日）以前にログインを行っていました。また、春学期および秋学期期末アンケートでシステムにログインした学生の 9 割程度はスマートフォンを媒体として利用していました。本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め FD 推進センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

1

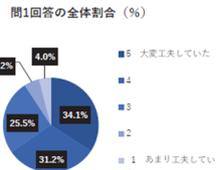
### 2. 全学集計結果について

本報告書では、5 段階の選択回答を求めた問 1～問 4 の単純集計とそれぞれの分析、問 3 の回答に対する問 1 と問 2 のクロス集計とそれぞれの分析、問 4 の回答に対する問 1、問 2、問 3 のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。FD 推進センターの主たる目的である「教育および学びの質の向上」ですが、教職員側と学生側とはその捉えるポイントに少しギャップがあります。そこで、問 1～問 3 に関する「教員の教授」と問 4 に関する「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問 3 を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問 4 を中心とした分析を行っています。また、問 1～問 4 の単純集計は学年別、科目種別別、履修選択別、履修選択別、科目設置主体別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問 1～問 4 の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

### 3. 教員の教授に関するアンケート回答について

#### (1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問 1 は、授業の工夫に対する学生の受け止めを 5 段階評価として尋ねています。問 1 は「この授業では、積極的な工夫がされていますか」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンを見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど、（5 段階評価で 2 回答ください）」を追加しています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた 65.3%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた 9.2%の学生は授業の工夫を求めていました。平均値は 3.86、中央値は 4 であるので、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。

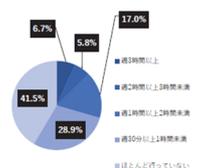


2

#### (2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問 2 は、授業外での学習への取り組みを 5 つの選択枝から尋ねています。問 2 は「この授業に関連しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問も含む」を追加しています。全体の回答割合を見ると、週 1 時間以上の授業外学習を行った学生は 29.9%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は 41.5%でした。大学設置基準は、学生が予習・復習に相当の時間をかけることを前提に到達目標を定めて授業を行うよう規定されています。また、2012 年 8 月に中央教育審議会が公表した「わが国の「質的転換」では、「事前準備・授業受講・事後復習を通して主体的な学習に要する総学習時間の確保が不可欠」との認識が示されており、2014 年 12 月に公表された答申でも、アメリカの大学生に比べて日本の大学生の学習時間が短いことが指摘されています。それらを踏まえると、今後も、学生の授業外学習時間をいかに確保していくかが課題になると考えられます。

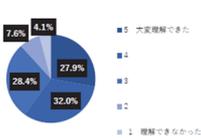
問2回答の全体割合 (%)



#### (3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問 3 は「この授業内容を理解できましたか（5 段階評価で 2 回答ください）」として講義内容の理解度を尋ねています。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は 59.9%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は 11.7%でした。平均値は 3.72、中央値は 4 であるので、全体的には理解できた自己評価したことになります。

問3回答の全体割合 (%)



#### (4) 理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めの関連を調べるため、問 3（理解度）と問 1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問 3（理解度）と問 1（授業の工夫の受け止め）ともに「5」を回答した学生が 22%、ともに「4」を回答した学生が 18%、ともに「3」を回答した学生が 15%でした。複層的に理解しやすくなるため人数が多いセルを縦に、人数が少ないセルを黄色に示すようにカラーセルを施しました（以下、同様）。この連関係数は 0.49（相関係数は、-0.25 で強い関係、0.1～0.25 で関係あり、0.1～弱い関係を示す）であり、この結果は、理解度と授業の工夫には正の強い相関係数があることを示しています。授業の工夫が原因で理解度が結果であるという因果関係にあると考えられます（逆の因果関係は考えにくいと考えられます）。

3

問4. この授業を履修してよかったと思いますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答枚数	5 (大変よかった)	4	3	2	1 (大変悪かった)
<統計>	4,676	10,961	53,803	21,966	14,004	12,655	2,937	2,240
<学年別>								
1年		4,602	28,740	11,326	7,297	7,098	1,688	1,331
2年		3,034	15,932	6,095	4,386	3,914	878	659
3年		2,464	7,310	3,482	1,905	1,389	316	218
4年		833	1,754	1,040	407	251	54	32
その他		31	67	53	9	4	1	0
<科目種別別>								
講義 (合計)	2,220	34,911	13,377	9,288	8,765	2,008	1,473	
25人未満	546	2,246	1,243	551	326	67	59	
25-49人	550	4,896	2,313	1,247	943	212	181	
50-99人	535	9,479	3,409	2,508	2,529	596	437	
100-199人	371	9,539	3,274	2,544	2,640	636	445	
200-299人	111	3,699	1,300	1,029	979	236	155	
300人以上	107	5,052	1,838	1,409	1,348	261	196	
演習	720	4,130	2,160	962	726	164	118	
習字	1,530	12,482	5,319	3,199	2,714	682	568	
実験	105	1,391	572	393	313	56	57	
実技	101	889	538	162	138	27	24	
<履修選択別>								
必修	1,587	16,576	6,506	4,145	4,072	1,004	849	
その他	3,089	37,227	15,460	9,859	6,584	1,933	1,391	
<担当教員別>								
専任	1,908	24,614	9,811	6,382	6,064	1,362	995	
兼任	2,768	29,189	12,155	7,622	6,592	1,575	1,245	
<科目担当者別別>								
市ヶ谷学部	1,183	12,788	5,720	3,433	2,625	612	398	
市ヶ谷教員	1,249	13,474	6,092	3,553	2,791	614	424	
小金井学部	614	9,625	3,180	2,540	2,812	640	453	
小金井教員	282	3,453	1,186	837	1,005	228	197	
多摩学部	1,156	13,317	5,038	3,435	3,302	810	732	
成金教員	124	731	450	145	79	27	30	
その他	68	415	300	61	42	6	6	

## 2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の選択回答を求めた問1～問4の単純集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。FD推進センターの主たる目的「教育および学びの質の向上」ですが、教職員側と学生側とはその捉え方にギャップがあります。そこで、問1～問3に關する「教員の教授」と問4に關する「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

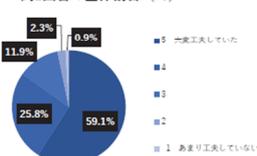
また、問1～問4の単純集計は学年別、受講者数規模別、担当教員別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

## 3. 教員の教授に関するアンケート回答について

### (1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めを5段階評価として尋ねています。問1は「この授業では、積極的な工夫がされていますか」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、熟悉、授業方法、板書法、スクリーンを見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)」を添えています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた84.9%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫していない「1」と「2」を合わせた3.2%の学生は授業の工夫を求めていました。

問1回答の全体割合 (%)



## 大学院

### 1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センターが主催する形として、これまでに14年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への非公開を担保した記名式の導入と「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。また、アンケートは博士後期課程以外を対象に行っています。

本学の大学院は、人文科学研究科 (市ヶ谷キャンパス)、国際文化研究科 (市ヶ谷キャンパス)、経済学研究科 (市ヶ谷・多摩キャンパス)、法学研究科 (市ヶ谷キャンパス)、政治学研究科 (市ヶ谷キャンパス)、社会学研究科 (市ヶ谷・多摩キャンパス)、経営学研究科 (市ヶ谷キャンパス)、公共政策研究科 (市ヶ谷キャンパス)、人間社会研究科 (多摩キャンパス)、情報科学研究科 (小金井キャンパス)、デザイン工学研究科 (市ヶ谷キャンパス)、政策創造研究科 (市ヶ谷キャンパス)、キャリアデザイン研究科 (市ヶ谷キャンパス)、理工学研究科 (小金井キャンパス)、スポーツ健康研究科 (多摩キャンパス) の15研究科と3インスティテュート (国際日本学インスティテュート、連帯社会学インスティテュート、総合理工学インスティテュート) から構成され、さらに大学院の専門職学位課程として専門職大学院 (法科大学院、経産大学院) が加わります。本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少数科制やゼミや研究の授業形態などの理由から博士後期課程には行っていません。また、同様の理由から2018年度は1,808科目のアンケートを実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では528科目 (講義全体の40%)、演習では1,126科目 (演習全体の85%)、実験では154科目 (実験全体の100%) であり、ゼミや研究がメインとなる科目が多くです。2017年度のアンケート対象の全科目数は893科目 (春学期504科目、秋学期389科目) でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は781科目 (春学期447科目、秋学期334科目) であり、結果として46.45%の回答率 (回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率) (春学期52.9%、秋学期40.0%) を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは巻末に年度、春学期、秋学期別に表として収録しています。

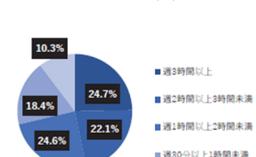
春学期期末アンケートは、2018年6月29日 (金)～8月7日 (火) (4期制の学部・研究科は5月～6月にも実施) に実施しました。また、秋学期期末アンケートは、2018年12月10日 (月)～2月8日 (金) (4期制の学部・研究科は10月～11月にも実施) の冬季休業 (12月25日～1月7日) を挟む期間として実施しました。

本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまの協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含めFD推進センターの活動へのご理解について心から感謝申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

### (2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択枝から尋ねています。問1は「この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問も含む。」を添えています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は71.4%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は10.3%でした。週3時間以上の授業外学習を行った学生は24.7%で、昨年度より増加していました (昨年度: 23.4%)。また、学部より多い割合でした。

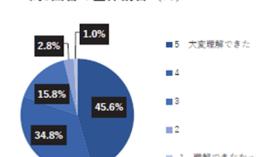
問2回答の全体割合 (%)



### (3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)」として講義内容の理解度を尋ねています。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は80.4%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は3.8%でした。

問3回答の全体割合 (%)



### (4) 理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めを調べるため、問3 (理解度) と問1 (授業の工夫の受け止め) のクロス集計を行いました。現実的に理解しやすくするため人数が多いセルを緑に、人数が少ないセルを黄色になるようにカラスケールを施しました (以下、同様)。この連関係数は0.37 (連関係数は、-0.25で強い関係、0.1-0.25で関係あり、0.1で弱い関係を示す) であり、それぞれの回答傾向に高い相関を認められました。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答 (81%) のうち、授業に工夫があったと受け止めた「5」「4」を回答した学生は75%であり、それに対して授業の工夫を求めた「2」「1」を回答した学生は0%でした。一方、理解が困難であった学生に当たる「1」「2」の回答 (4%) のうち、授業の工夫を求めた「1」「2」を回答した学生は1%でしたが、授業の工夫があったと受け止めた「4」「5」を回答した学生は2%でした。したがって、理解度と授業の工夫には正の強い相関関係があることを示しています。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の理解度を上げるためには、授業の工夫をすることが重要になっているとも解釈することができます。

# 9. 2019 年度 GPCA 集計結果

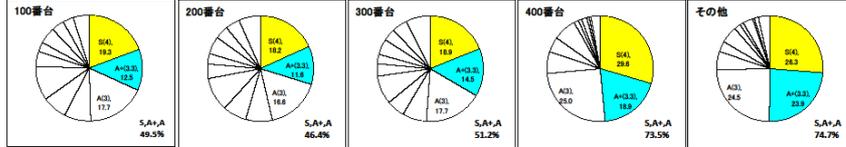
春学期 (抜粋)

2020年3月19日  
教育開発支援機構FPI推進センター

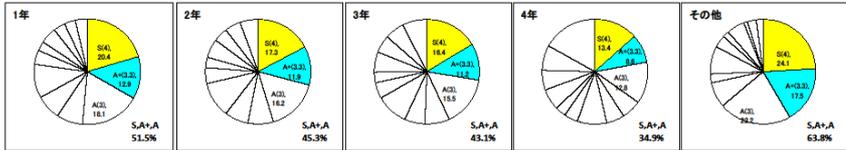
2019年度 春学期

全学GPCA集計表(全学部(通学課程))

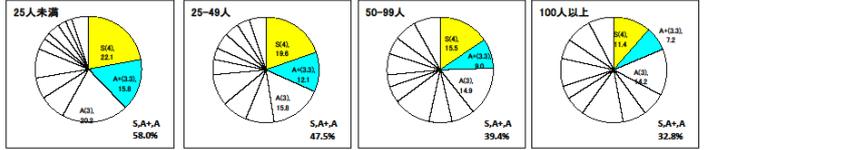
全授業	サンプル サイズ	評価分布(%)														標準偏差 (標準)	GPCA
		S(4)	A+(3.3)	A(3)	A-(2.7)	B+(2.3)	B(2)	B-(1.7)	C+(1.3)	C(1)	C-(0.7)	D(0)	E(0)	合計			
100番台	5,164	19.3	12.9	17.7	7.9	6.9	9.9	4.3	2.9	9.0	3.7	3.8	9.8	100.0	0.64	2.63	
200番台	2,294	19.3	12.5	17.7	8.1	7.5	10.4	4.6	2.9	6.0	3.9	3.2	4.9	100.0	0.58	2.63	
300番台	1,749	18.2	11.6	16.6	8.1	7.2	10.3	4.5	3.2	5.4	4.0	4.4	6.6	100.0	0.66	2.35	
400番台	865	19.9	14.5	17.7	7.4	5.5	8.7	3.8	2.8	4.8	3.7	4.7	7.4	100.0	0.69	2.82	
その他	174	28.6	18.9	25.0	6.7	4.6	7.0	1.4	1.0	1.6	0.7	0.6	2.8	100.0	0.59	3.13	
合計	72	28.3	23.9	24.5	5.6	3.2	5.1	2.0	1.1	3.0	0.6	1.2	3.5	100.0	0.56	3.08	



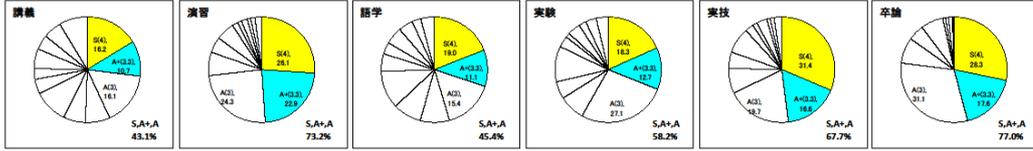
学年別	サンプル サイズ	S(4)	A+(3.3)	A(3)	A-(2.7)	B+(2.3)	B(2)	B-(1.7)	C+(1.3)	C(1)	C-(0.7)	D(0)	E(0)	合計	標準偏差 (標準)	GPCA
1年	2,399	20.4	12.9	18.1	8.0	7.5	10.3	4.3	2.9	4.9	3.6	3.4	3.7	100.0	0.64	2.66
2年	2,983	17.3	11.9	16.2	7.8	7.2	11.0	4.9	3.2	5.8	4.3	4.9	5.6	100.0	0.77	2.51
3年	2,881	16.4	11.2	15.5	7.6	6.2	9.8	4.9	3.2	6.2	5.4	5.9	7.5	100.0	0.86	2.42
4年	2,246	13.4	8.6	12.8	6.0	5.5	9.0	4.2	3.2	6.5	6.1	7.7	16.9	100.0	0.98	2.22
その他	67	24.1	17.5	22.2	7.8	2.7	8.6	3.7	2.0	5.5	1.1	2.7	2.1	100.0	0.87	2.86



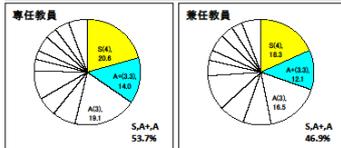
受講者数規模別	サンプル サイズ	S(4)	A+(3.3)	A(3)	A-(2.7)	B+(2.3)	B(2)	B-(1.7)	C+(1.3)	C(1)	C-(0.7)	D(0)	E(0)	合計	標準偏差 (標準)	GPCA
25人未満	2,585	22.1	15.8	20.2	7.9	6.4	9.9	3.4	2.2	3.6	2.5	2.0	5.1	100.0	0.62	2.82
25-49人	1,314	19.6	12.1	15.8	8.7	7.7	9.6	4.7	3.5	5.0	4.4	3.8	5.1	100.0	0.58	2.59
50-99人	624	15.5	9.0	14.9	7.0	7.0	11.4	5.0	3.7	6.5	5.3	6.7	8.1	100.0	0.57	2.35
100人以上	661	11.4	7.2	14.2	7.2	7.1	12.8	6.0	4.0	8.6	6.0	7.8	7.7	100.0	0.57	2.17



科目種類別	講義	演習	語学	実験	実技	卒論										
講義	2,444	162	10.7	16.1	7.5	6.7	10.3	4.5	3.3	6.0	4.5	5.6	8.6	100.0	0.63	2.46
演習	748	26.1	22.9	24.3	7.2	4.8	5.6	1.8	1.2	1.8	1.1	1.3	2.0	100.0	0.54	3.07
語学	1,616	19.0	11.1	15.4	8.9	8.6	11.5	5.4	3.6	5.3	4.4	2.7	4.2	100.0	0.59	2.58
実験	109	18.3	12.7	27.1	7.9	5.2	10.9	3.4	1.4	3.9	2.2	3.3	3.6	100.0	0.52	2.75
実技	190	31.4	16.9	19.7	7.7	5.0	7.9	2.6	1.4	3.1	1.1	1.2	2.3	100.0	0.51	3.04
卒論	87	28.3	17.6	31.1	7.9	4.9	6.8	0.8	0.8	1.2	0.4	0.6	0.2	100.0	0.51	3.15



担当教員別	専任教員	兼任教員														
専任教員	2,270	20.6	14.0	19.1	7.1	5.8	8.8	3.6	2.7	4.8	3.5	4.4	5.7	100.0	0.69	2.66
兼任教員	2,914	18.3	12.1	16.5	8.5	7.7	10.7	4.8	3.1	5.1	4.0	3.3	5.9	100.0	0.60	2.60



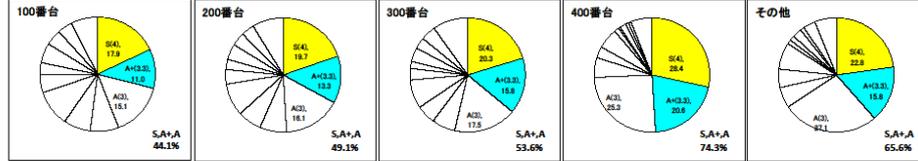
秋学期 (抜粋)

2020年6月25日  
教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

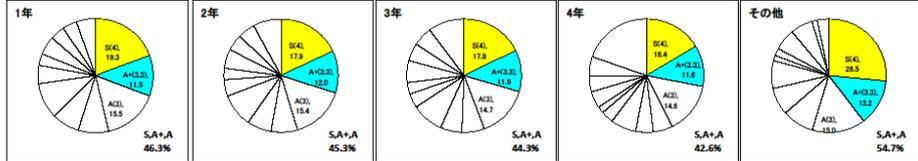
2019年度 秋学期

全学GPCA集計表(全学部(通学課程))

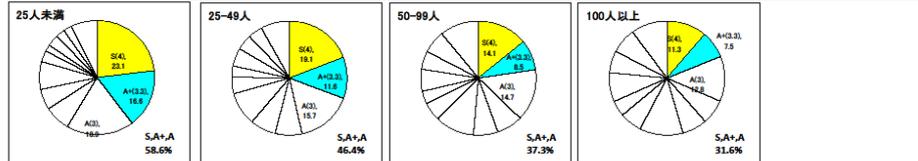
全学集計	サンプル サイズ	評定分布(%)													合計	標準偏差 (標準)	GPCA
		S(4)	A+(3.3)	A(3)	A-(2.7)	B+(2.3)	B(2)	B-(1.7)	C+(1.3)	C(1)	C-(0.7)	D(0)	E(0)				
100番台	5,798	20.1	13.7	17.1	7.3	6.4	9.0	4.1	2.6	4.5	3.6	3.6	3.2	100.0	0.66	2.67	
200番台	2,214	17.9	11.0	15.1	8.0	7.5	10.1	5.2	3.4	5.6	4.4	4.1	9.6	100.0	0.61	2.52	
300番台	1,862	19.7	13.3	16.1	7.5	6.7	9.1	4.2	2.8	4.4	3.8	3.6	8.7	100.0	0.67	2.64	
400番台	1,045	20.3	15.8	17.5	6.5	5.3	8.1	3.3	2.0	3.9	3.2	4.2	9.8	100.0	0.69	2.71	
その他	579	28.4	20.6	25.3	5.8	3.2	5.8	1.4	0.5	1.9	0.9	0.8	5.9	100.0	0.53	3.15	
その他	96	22.8	15.8	27.1	5.8	5.2	7.5	1.2	1.4	2.6	1.1	3.4	6.1	100.0	0.72	2.92	



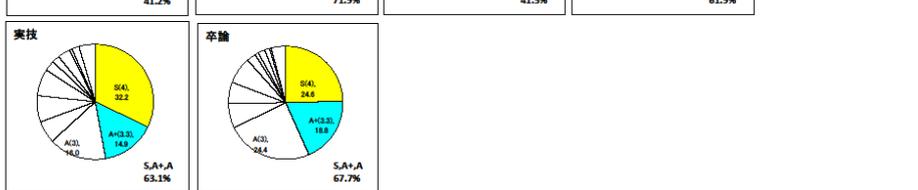
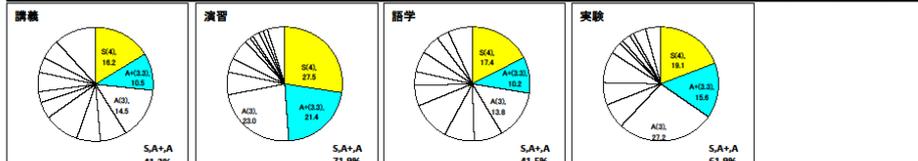
学年別	1年	2年	3年	4年	その他
人数	2,417	3,159	3,180	2,754	67
S(4)	19.3	17.9	17.8	18.4	26.5
A+(3.3)	11.5	12.0	11.8	11.6	13.2
A(3)	15.5	15.4	14.7	14.6	15.0
A-(2.7)	8.5	7.5	6.4	5.5	9.0
B+(2.3)	7.6	6.8	6.0	7.2	7.8
B(2)	10.2	9.5	9.0	9.3	9.1
B-(1.7)	5.1	4.7	4.1	3.5	1.5
C+(1.3)	3.3	3.2	3.2	1.9	2.1
C(1)	5.3	5.5	6.3	4.7	6.1
C-(0.7)	4.1	4.7	5.1	4.4	3.5
D(0)	4.1	4.9	5.5	5.6	1.5
E(0)	5.4	7.9	10.2	19.6	3.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
標準偏差	0.65	0.82	0.89	0.99	1.08
GPCA	2.57	2.51	2.47	2.48	2.75



受講者数規模別	25人未満	25-49人	50-99人	100人以上
人数	3,195	1,464	586	551
S(4)	23.1	19.1	14.1	11.3
A+(3.3)	16.6	11.6	8.5	7.5
A(3)	18.9	15.7	14.7	12.8
A-(2.7)	7.2	7.6	7.3	7.0
B+(2.3)	5.8	7.2	6.9	6.9
B(2)	7.9	9.4	11.0	12.2
B-(1.7)	3.2	4.7	5.2	6.2
C+(1.3)	1.9	3.2	3.6	4.4
C(1)	3.2	5.1	6.3	8.2
C-(0.7)	2.5	4.3	5.1	6.2
D(0)	2.3	4.0	6.4	7.1
E(0)	7.4	8.0	10.9	10.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
標準偏差	0.65	0.60	0.56	0.53
GPCA	2.85	2.57	2.33	2.17



科目種類別	講義	演習	語学	実験
人数	2,349	1,544	1,565	124
S(4)	16.2	27.5	17.4	19.1
A+(3.3)	10.5	21.4	10.2	15.6
A(3)	14.5	23.0	13.8	27.2
A-(2.7)	7.5	6.4	8.0	7.1
B+(2.3)	6.6	3.9	8.4	6.3
B(2)	9.8	5.9	10.9	8.8
B-(1.7)	4.7	1.6	5.8	3.3
C+(1.3)	3.1	0.9	3.9	1.1
C(1)	5.5	2.0	5.6	2.4
C-(0.7)	4.3	1.3	3.4	1.1
D(0)	5.6	1.2	4.9	3.6
E(0)	11.7	4.9	6.9	4.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
標準偏差	0.83	0.54	0.63	0.52
GPCA	2.47	3.09	2.48	2.83



担当教員別	専任教員	兼任教員
人数	2,848	2,948
S(4)	22.2	18.0
A+(3.3)	16.0	11.3
A(3)	19.3	15.0
A-(2.7)	6.5	8.1
B+(2.3)	5.1	7.6
B(2)	7.6	10.3
B-(1.7)	3.1	5.0
C+(1.3)	2.0	3.2
C(1)	3.9	5.1
C-(0.7)	2.9	4.3
D(0)	3.5	3.7
E(0)	7.7	8.6
合計	100.0	100.0
標準偏差	0.68	0.63
GPCA	2.78	2.56

